



ニューヨーク補習授業校だより

絆・きずな

平成 30 (2018) 年

5月26日発行

第5号

夢のふくらむ学校

本校では、L I 校にバーンズ亀山静子先生、W校に西尾尚子先生のお二人のスクールカウンセラーを配置しています。今号は、西尾尚子先生に寄稿していただきました。

スクール・カウンセラー便り

今回は宿題への取り組み方、喧嘩になったり怒ったり(なるべく)せずに宿題をやらせる工夫についてお話します。



西尾尚子先生

☆まずは宿題にとりかかりやすい環境を作ろう！

1. 計画をたてる (タイムマネージメント)

土曜日の段階でその週1週間の習い事や行事によって宿題ができそうな日、どのぐらいの時間がとれそうなのか、どの宿題をどの曜日にするのかを計画しておきましょう。高学年以上になれば自主性を持たせるために一緒に計画できるといいですね。

2. 勉強をしやすい環境作り

勉強する時には周りには関係のないものは置かず気が散らない環境をつくるように心がけましょう。低学年または高学年でも一人で学習すると進みが遅い場合は親が近くで様子を見られる場所がいいと思います。

☆やる気を出させるために工夫をしてみよう！

1. 宿題をやるベストなタイミング

楽しいことのあとに宿題(テレビを見ているのを中断してから宿題)ではよりそのギャップが大きいのでやる気を出させるのが難しいかもしれません。宿題のあとに楽しいこと(宿題が終わってからゲームなど)を持っていくようにしましょう。もしどうしてもイベントなどがあり楽しいことが先になってしまう場合は予めあと何分、何時までなど予告しておき、宿題後にも楽しい活動が短時間でもあるようにしましょう。

2. 宿題の順番の工夫

いきなり苦手な科目や労力を使う宿題にとりかかるのはハードルが高いかもしれません。最初はお子さんが簡単・得意なものから始め、難しい(苦手な)ものを少しずつ間に入れて1週間わけてやっていけるといいと思います。算数が得意なお子さんは毎日算数のドリルから始めて気分がのってきたあとに苦手な読解・作文などを少しずつ導入するといいかもしれません。

3. ゲーム感覚で楽しく

「何分でこの問題できるか計ってみよう!」「お母さんが洗い物するのとどっちが早いか競争しよう!」など楽しそうな雰囲気を作ると宿題も楽しくできるかもしれません。

4. 些細なことでも褒めて盛り上げよう

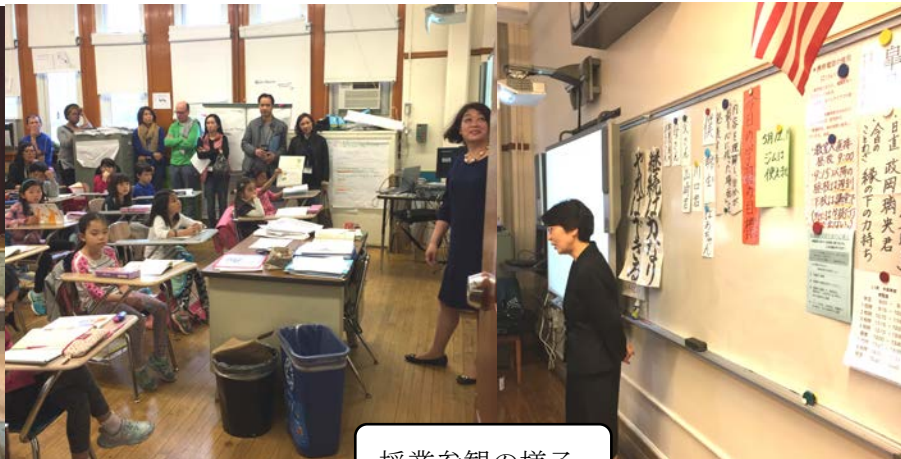
いくつになっても人(特に大好きなお父さんお母さん)に褒められるのは嬉しいものです。褒められると自信にも繋がり、宿題をする作業が心地いい体験となります。「宿題をするのは当然」と思わずに頑張っている姿をたくさん褒めてあげてください。小さな褒美(お菓子、行動表にシールを集めて何かと交換など)も使ってみてもいいかもしれません。

個別にご質問、ご相談があればいつでもお気軽に学校で声かけまたは下記までメールでご連絡ください。 メールアドレス ; nishio@jec-ny.org

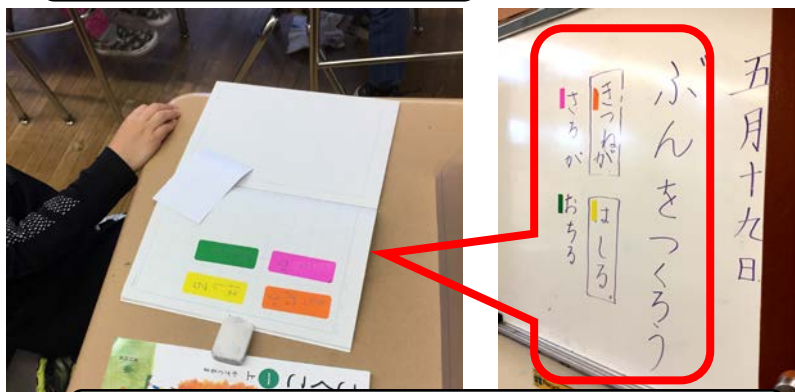
L校



幼児部～ラジオ体操の練習



授業参観の様子



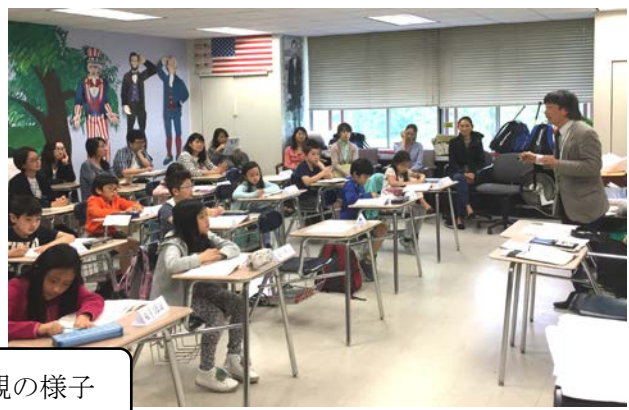
文の構成を色分けして理解させやすくする工夫



W校



授業参観の様子



中高等部は、楽しみにしていた球技大会！



友達が付箋にコメントを書いてくれるのもうれしいですね。